

# 翔

2015  
February

No.232  
百万石蝶談会



## 金沢市寺津町でミスジチョウを採集

浅野直樹

金沢市では、かつて山間地集落周辺でオオミスジを普通に観察できたが、1995年以降金沢市では観察されていないことから最も調査が必要な種の一つと言われている（松井、2008）（松井、2011）。そこで2008年以降、金沢市におけるオオミスジ生息調査を行っているが、2014年時点でその生息は確認されていない。

県道207号線倉谷土清水線は、落石の危険性から上寺津発電所入口で一般車両が通行規制されているが、ここには大きなウメの古木が2本あり、ここ数年観察を続けているが残念ながら見つからない。

2014年6月26日上寺津発電所から犀川ダムに向かって10分程の地点で地面すれすれの所を大きなミスジチョウの仲間が飛んでいるのを見つけ、「オオミスジだ！」と思い夢中でネットを振った。ネットインした蝶をよく見たらオオミスジではなくて（オオキナ）ミスジチョウのメスであった。ミスジチョウは金沢市では、医王山、湯涌、倉ヶ嶽などで主に観察されているが、報告例は少ない。

2014年6月26日 石川県金沢市寺津町 ミスジチョウ 1♀ 浅野直樹



### 《 参考文献 》

松井正人（2008）石川県のオオミスジを探そう．翔(191):3-5.

松井正人（2011）石川県のオオミスジを探そう その2．翔(208):1-7.

《あさの なおき 〒920-0955 金沢市土清水1-95》

## 白山加賀禅定道のヒメシジミ

松井 正人

石川県白山市加賀禅定道の標高1120m付近でヒメシジミを観察したので報告する。一里野スキー場では、標高550mのゲレンデ下部から標高1030mのゴンドラ山頂駅にかけてヒメシジミが多数発生している。このゴンドラ山頂駅から尾根沿いに加賀禅定道が白山主峰に延びており、山頂駅から約1km離れた標高1120m付近でヒメシジミを観察した。

2014年7月6日 白山市一里野加賀禅定道（標高1120m）ヒメシジミ 6♂目撃 松井正人

石川県で最稀少種の一つだったヒメシジミは、2013年、2014年とスキー場ゲレンデとその周辺で大発生しているが、スキー場から離れるにしたがって観察できる数は激減する。広いゲレンデの環境は攪乱され、本来この地域では見られないイタチハギやミヤコグサなどの緑化植物が繁茂している。在来のヒメシジミが、この新しい環境に適応して一時的に増加しているのかも知れないが、緑化植物の種子に卵が紛れ込み、外来のヒメシジミが大発生している可能性も否定できない。



《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 医王山でウエダオオズナガゴミムシとヒゲナガホラヒラタゴミムシを採集

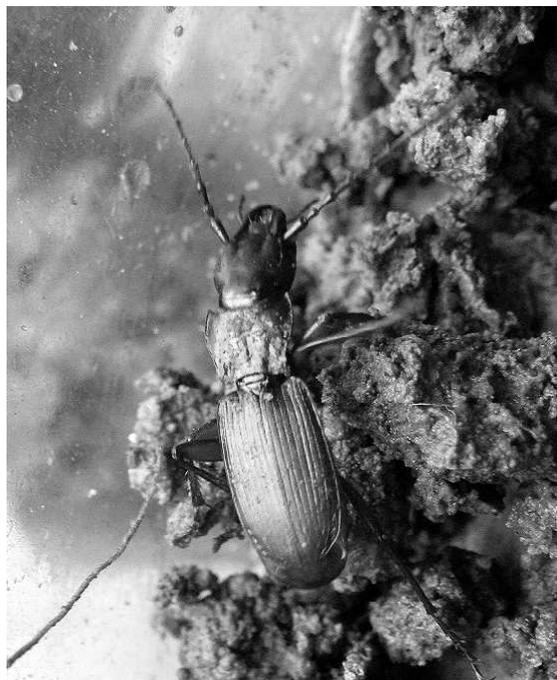
大宮正太郎

ウエダオオズナガゴミムシ *Pterostichus uedaorum* Morita et Hirasawa は、1996年に新種記載された地下浅層性のゴミムシで、体は地下生活に適応しており扁平で、複眼も小さく後翅が退化しており、和名の通り頭部が巨頭化しているのが特徴である。金沢市の医王山と白山市の別当出会で記録があるが、個体数は少なく、「いしかわレッドデータブック」（石川県, 2009）において絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

ヒゲナガホラヒラタゴミムシ *Jujiroa imunada* Ueno は、1993年に新種記載された地下浅層性のゴミムシで、金沢市犀川の中流域にある石切場跡の洞窟や医王山（井村, 2007）などで採集されており、「いしかわレッドデータブック」において絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。

筆者は、医王山の石川県側で、2014年10月31日から11月28日にかけて設置された地中トラップにて、ウエダオオズナガゴミムシを14頭、ヒゲナガホラヒラタゴミムシを1頭採集しているので報告する。また、これらの採集にあたって、医王山への同行および採集方法について指導していただいた井村正行氏にこの場を借りて御礼申し上げる。

2014年11月28日 石川県金沢市医王山 ウエダオオズナガゴミムシ 14頭 大宮正太郎  
2014年11月28日 石川県金沢市医王山 ヒゲナガホラヒラタゴミムシ 1頭 大宮正太郎



トラップに入ったウエダオオズナガゴミムシ



標本にしたヒゲナガホラヒラタゴミムシ



地中トラップを設置した医王山のブナ林斜面



地中トラップ設置の様子、見えにくいが餅焼き用の金網を設置している

《 参考文献 》

井村正行 (2007) 医王山におけるウエダオオズナガゴミムシ(*Pterostichus uedaorum*)の生態に関する報告. とっくりばち(75): 20-22.

石川県 (2009) 改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック <動物編>2009. 石川県自然保護課. [http://www.pref.ishikawa.jp/sizen/reddata/RDB\\_2009/](http://www.pref.ishikawa.jp/sizen/reddata/RDB_2009/)

《おおみや しょうたろう 〒920-0027 金沢市駅西新町3丁目5-23-205》

## アサギマダラに囲まれ楽しい時間を過ごす

松井 正 人

2014年9月7日、石川県白山市白峰西山の標高1000m付近で、アサギマダラの大群に遭遇した。林道法面に咲くアザミやオトコエシで吸蜜しており、あまり飛翔せず飛翔しても白タオルを回して呼び寄せ、ほとんど移動することなく約2時間で82頭にマークした。

アサギマダラは多く、まだまだマーキングは続けられたが、区切りの良い所でやめることにした。短時間に多数のアサギマダラをつまんだためか、左手の親指と人差指は、アサギマダラの肩板から染み出た液（松井、2006）でベタベタになっており、マーキングを止めて指がフリーになると、1♂が指に止まってなめ始めた。歩いたり、いろんな角度から写真を撮るために手を動かしても、飛び立たずになめ続けていた。

1♂がなめ始めて10分ほどすると指が乾いてきたので、湿気らすと止まる数が増えるかと思い水を探したが見付からず、スポーツ飲料で湿気らしたが、周囲を飛び回る数頭のアサギマダラは指に止まることはなかった。しかし、アザミに止まっている個体に指を近づけると、飛び立たず指に乗り移ってきたので、これを繰り返し4♂が手に乗り移った。こうなると周囲を飛んでいる♂が関心を示し始め、新たに2♂が直接手に止まり6♂となり、7♂目が止まろうとすると1♂が飛び上がり、6♂がマックスとなった。

左手には6♂のアサギマダラが止り、耳元でバサバサと羽音が聞こえるくらい周囲にはいくつものアサギマダラが飛び交い、いつまでもこうしていたいほど、たまらなく楽しいひとときだった。

《 参考文献 》

松井正人（2006）アサギマダラの涙は肩板から。翔(180):2.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》



左手の人差し指に止まってなめ始めた最初の1♂



薬指に止まって羽ばたいている♂の向こう側に7頭目が止まろうとしている。

## 短報 232

エルタテハ 2014年7月21日 白山市中宮スキー場	1 頭目撃	松井 正人
エルタテハ 2014年8月 2日 白山市瀬戸丸山公園	1 頭目撃	吉村 久貴
エルタテハ 2014年8月 2日 白山市白山スーパー林道標高1450m	1 頭目撃	吉村 久貴
エルタテハ 2014年8月19日 白山市一里野スキー場	1 頭	細沼 宏

## 2014年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額 (円)	項 目	金額 (円)
2014年度会費	117,000	会誌作成費(6冊80頁)	163,440
当該年度以外会費	22,500	例 会 費(8回)	3,000
会誌売上金	18,000	石川県自然史センター会費	3,000
郵送負担金	16,000	郵 送 費	25,334
寄付金	100	消 耗 品 費	1,037
前年度繰越金	3,740		
次年度繰入金	18,471		
計	195,811	計	195,811

年会費は3,000円、郵送負担金は500円

## 表紙のむし - クロメンガタスズメの幼虫 -

クロメンガタスズメの終齢幼虫は、怪獣世代の心をくすぐる容姿?の持ち主だ。まず大きい。(菜園プランターで育てているナスやミニトマトを丸坊主にしてしまう)何の役に立っているかわからない尾角が、やたらでこぼこしている。同一種とは俄に信じがたい体色の違う型があり、どちらも質感が不気味。蛹化場所を求めて徘徊する姿に迫力がある。専門知識に乏しく学術的な視点に無縁な、ただ虫を眺めているのが楽しいだけの小生の嗜好なので共感してもらえないと思うが、蛹化場所を求めて移動している途中で倒伏していたマリーゴールドの花びらを食する反教科書的(図鑑に記載されていない)行動もポイントが高い。

小幡英典

## 2013年アサギマダラ日記

松井正人

### ■ 5月18日 アサギ調査開始

7時に海岸調査に出発し、午前中に7カ所を回る。羽咋市一宮は、砂がかなり浸食されスナビキソウの根が枯れ木のように砂から出ていたが、花は咲き誇り香りもプンプン匂った。ここで1♂に初マークする。志賀町甘田も砂の浸食が激しく、スナビキソウは激減し小さいものばかりで、花はほとんど咲いていない。今日は志賀町鹿頭まで北上し、3♂にマークできた。



むき出しになったスナビキソウの根と、たくましく再生したスナビキソウ。(5月18日羽咋市一宮海岸)

### ■ 5月26日 日陰ポイントは大当たり

金沢を早朝4時に出発し、6時から珠洲で調査を開始する。スナビキソウは花盛りなのにアサギは少なく、10時までに15カ所を回って14♂にマーク。暑くなってきたので、狼煙の日陰ポイントへ。ここは、10時頃からタブ林の陰がスナビキソウまで伸びて涼しくなり、待っているとアサギが次から次と飛来し、12♂にマークできた。



海岸に発達したタブ林が、スナビキソウに陰を落とすテトラポイント。(5月26日珠洲市狼煙)

### ■ 6月1日 貸し切りバスで大名調査

チャーターしたバスでマーキングしながら外浦海岸を巡る催しが珠洲市で開かれたが、参加者は少なめ。午後からの調査だったが、気温が上がらないことが幸いし、アサギはそこそこ観察できた。バスをタクシーのように使ってポイントを移動する大名調査になった。



川浦から高屋に向かう途中に樁展望台があり、ここから高屋方向の眺めは絶景。

### ■ 6月8日 金沢海岸でマーキング

海岸に沿って自転車道路があり、普正寺から専光寺、下安原、打木へと、ポツリポツリとスナビキソウが咲いている。朝5時半から片道約40分を歩き、9頭を見つけたがマークできたのは6♂。帰路は疲れる砂地を歩かず、ひたすら自転車道路を歩いて戻る。



自転車道路沿いに散見されるスナビキソウ。  
(金沢市打木町地内)

### ■ 6月8日佐渡から朗報

佐渡の大脇氏から電話が入った。とたんに鼻歌が口を突き、「良いことあったんでしょ」と妻に見抜かれた。この日、佐渡市で行われたマーキング会で「スズノロシ 6/1」が見付かった。発見者は笹野正光さんで、能登から佐渡への確認はこれで2頭目。



6月1日に行われた珠洲市狼煙の調査風景。午前中にマークされたアサギが、7日後に佐渡市岩谷口で見付かった。

### ■ 6月18日 珠洲にキカイマークが飛来

珠洲では毎年再観察が有り、これまでの最遠は「ナガサキ」だったが、ついに「キカイ」が見付かった。喜界島で長年調査を続けている福島 誠さんが放蝶し、珠洲で熱心に調査を続け「ナガサキ」も見つけている砂山信一さんが再観察した。喜界島からの直線距離は1230kmあり、24日で飛んできた。



珠洲市川浦で見付かった「キカイ MF 7806」。5月25日に鹿児島県喜界島で福島 誠さんによってマーク放蝶された。

### ■ 7月22日 県内発生が始まる

石川県でアサギは越冬できず、初夏に飛来したアサギの子どもが、このころから羽化する。能登の鉢伏山や宝立山などで、ヨツバヒヨドリに群がるアサギが観察され、金沢市や小松市の山中でも、新成虫ばかり観察された。

### ■ 9月1日 宝達山に看板設置

宝達山は能登半島で一番高く、頂上まで舗装道路が整備されており、眺望や避暑目当てに登ってくる人が多い。9月になると、「山の龍宮城」から頂上にかけてはアサギが多く、優雅に飛ぶ姿が観察できるため、この時期には旅するアサギとマーキング調査の紹介看板を、道路沿いに10枚ほど設置している。



車道脇のヨツバヒヨドリに訪花するアサギマダラ。狭い範囲に15頭が写っている。

7月22日11時頃 鉢伏山山頂付近 佐野禎宣さん撮影

### ■ 9月14日 宝達山に第1波飛来

朝から下界は30度を超える暑さで、宝達山頂はアサギ天国。早朝から道路脇のアザミにたくさん止まっている。一番乗りで7時30分からマーキングしていると、アサギファンが次々に駆けつけ今日のマーク総数は320頭。



鳥居前に陣取り和やかに談笑する顔なじみのアサギファン。9月14日12時頃。

### ■ 9月23日 宝達山に第2波飛来

お彼岸の良い天气に恵まれて気温も上がり、宝達山は人もアサギも大にぎわい。入れ替わり立ち替わり各地のマーカークが訪れ、新しいマーカークが来るたびにアサギが一斉に飛び出しサービスする。今日のマーク数は392頭になったが、第2波は20日から始まっているようで、4日間の合計は1095頭になった。



右に左にアサギが飛び出すサービスタイムが始まり右往左往するマーカーク姉妹。9月23日11時頃。

### ■ 10月13日 いつまで続くマーキング

例年では10月になると宝達山では観察できなくなるが、今年は気温が高く、山頂でも20度を超える日がある。アサギの紹介看板は6日に撤収したが、観察は続き、10月に入ってから宝達山のマーク数は160頭になった。

■将来有望な小学生

宝達小学校では、3年生からマーキングを始める。ネットを持たすと、できるだけ長く持ってチャンバラするが、中にはハッとするほどのネットさばきを見せる子もいる。



ネットさばきに抜群のセンスの見せるアサギファンの兄妹。

■11月2日 再観察が多くて嬉しい悲鳴

アサギの移動内容が分かる再観察カードを「山の龍宮城」に貼っているが、今年は数が多くて場所が足りない。橘さんが特別に新しい場所を作ってくれたが、ここも直ぐにいっぱいになった。また場所づくりが必要だが、今年は再観察が多く嬉しくてたまらない。



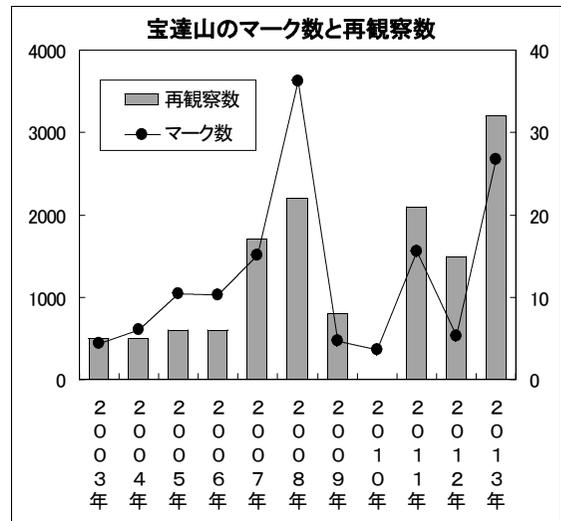
「山の龍宮城」に張り出した再観察カード。写っていないが出入口の奥や右側にも張ってある。

■12月5日 フジバカマ山完成

輪島の南志見小学校では、花壇のフジバカマにアサギが飛来する。校長先生は大のアサギファンで、「アサギの来る小学校」を目指して校舎横にフジバカマ山を作ることになり、校長先生が植えるばかりに整え、子どもたちが植えた。これで、アサギマダラの大群が押し寄せると子どもたちも先生も楽しみにしている。

■宝達マークの再観察は過去最高

今年の宝達山のマーク数は約2700頭で、最も多かった2008年の3600頭に次ぐ数となったが、宝達マークの再観察数は32頭と過去最高となり、宝達山から真南に50km程の距離にある白山市瀬戸周辺で3頭が初めて再観察された。



《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 会員の動き・しゃばの動き

### ■地下浅層のゴミムシトラップ

大宮氏、医王山ブナ林の地中トラップで、思わぬ成果があった。石ころゴロゴロの場所に穴を掘ってトラップを埋めたが、これがなかなかの肉体労働。設置時期は遅いほど良いらしいが、雪が降る前に回収しなければならず、今回はギリギリセーフ。

### ■12月の大雪

例年ならば降っても直ぐに解け、クリスマスになっても雪は無い。ところが、5日の寒波から積もり、解けても直ぐに積もって積雪は続いている。12月はトゲナナの観察適期なのだが、今年は11月22日が見納め。

### ■珠洲のウラキンシジミ

能登のウラキンと言えば、宝達山と鉢伏山の2カ所しか知られていなかったが、1996年に珠洲市宝立山で採集されていた。世田谷昆虫愛好会の「羽化」に飼育羽化したカラー写真入りで報告されており、能登には、広く分布しているようだ。

### ■刈安山のムラサキツバメ

石川県では2012、2013年と観察されていたが、2014年は観察されていない。ところが、刈安山の福井県側で6月に1♂が採集されていた。山を越えて加賀市に入っていた可能性は十分に有り、食痕探しは、これからでもできる。

### ■蛇紋岩マジック

超塩基性岩の蛇紋岩がある場所は、新たな植物が進出しづらく、古い時代の植物が生き残っているらしい。植物が生き残っていれば、それに依存する虫も生き残ってい

る可能性が高く、蛇紋岩地の虫探しは面白そうだが、石川県にあるのだろうか。

### ■ヒメに涌きエルにも涌いたが

2014年は、一里野周辺でたくさんのエルタテハが観察されたが、全国を股にかけて蝶の写真を撮りまくっている左合氏は、一里野周辺で2013年に観察していたらしい。2013年と言えばヒメシジミに涌いていたが、エルには気づかなかった。

### ■ご褒美

記録された所へ行っても虫を採る事もあれば、「こんな森には」とか「こんな谷には」とか推理して虫採りに出かける事もある。好きな場所に何度も通って虫を探すこともあるが、こんな時に思ってもいなかった虫が採れたりすると、飛び上がるほど嬉しい。

### ■消えていた昆虫写真

ジャポニカ学習帳は大好きなノートで、各国の珍しい昆虫が表紙を飾っていたが、2012年からは昆虫の姿が消えていた。保護者だけでなく教師からも「気持ち悪い」との声が寄せられたのが原因で、ここまで虫離れや虫嫌いが進んでいるとは、悲しい限りである。

### ■真夏の気分になりたくて

北陸の冬は暗い。黒い雲が空を覆いつくし、朝になっても明るくならない。陽の光を浴びないと気分も落ち込み滅入ってしまう。ならばと、エゾゼミの仲間の声を聞きながら、パソコン画面を窓だと思って夏の景色を眺めていたが、部屋が寒くてその気になれなかった。

## ■老眼に鞭打って

小さなシジミばかり集めている細沼氏、ヒメだけでドイツ箱6箱も有り、冬場は古い標本の再展翅に明け暮れている。甲虫と違って蝶の標本は、触れば触るほど劣化するが、翅の下がったものは許せず、裏が綺麗なものは裏を見せたいとか。

## ■エクセル.xls を使っていたが

データ登録にはエクセルを愛用し、下位互換のために拡張子を「xls」として使っていたが、セキュリティ問題を知らなかった。「xlsx」はファイルの構造を変えたり、マクロを登録できなくしたりと、ウィルス対策が格段にアップしている。

## ■アカエゾゼミ採集のチャンス

赤く輝くアカエゾゼミは採集が難しく、声はすれども姿は見えなくて県内では未だ4頭しか採集されていないが、今年は4年に1度の当たり年で大発生が予想されている。分布の中心は、標高800~900mで7月末から8月にかけて出現する。

## ■ 例 会 の 記 録 ■

12月4日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、鳴和台で鳴いていたスジアカカマゼミについて、富沢氏が報告。スジアカカは、競馬場周辺で継続して観察されているが、東部クリーンセンター周辺で複数個体が観察された。抜殻は見付からなかったが、近くでは2009年にも鳴き声が観察されており、競馬場周辺の伐採枝がここへ運ばれていたとすれば、発生している可能性が有る。

その他の話題は、オオミスジはレッドランクアップ、オオシモフリはレッド除外、入場コレクションの目録作り、大陸起源の蝶、虫にも表情が有る、オオズナガゴミが医王山で大漁、サペルディーニの遺伝子解析、今年の展翅は7千頭、僕のコレクションは800箱、などなど。

参加は、富沢、井村、浅地、竹谷、大宮、細沼、松井、福富の8人。

## ■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

## 目 次

浅野直樹：金沢市寺津町でミスジチョウを採集	1
松井正人：白山加賀禅定道のヒメシジミ	2
大宮正太郎：医王山でウエダオオズナガゴミムシとヒゲナガホラヒラタゴミムシを採集	3
松井正人：アサギマダラに囲まれ楽しい時間を過ごす	5
松井正人：2013年アサギマダラ日記	7
編集部：会員の動き・しゃばの動き	11

## 翔 232号

Tobu 2015年 2月10日発行  
百万石蝶談会  
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727  
郵便振替 00750-8-562  
印刷 小西紙店印刷所

